平成30年度北アルプス医療センターあづみ病院　経年別教育プログラム

定義	ランク	ランク1（1～2年）	ランク2（3～5年）	ランク3（6～9年）	ランク4（10～20年）	ランク5（21年以上）	介護福祉士・看護補助者
	担当者	プリセプター　○松島・松尾・横山	○伊藤・坂井・中山敦	○関川・望月・高根	○大西・老野・沢渡	○田中・藤川・橋本	○合津・清水・西尾
	担当者	新人教育　○高橋・冨永・児玉	看護研究○大月・平林・保科・杉山	リーダーシップ　○小池・小林	集合研修　小林統括部長	集合研修　小林統括部長	
	担当者	2年目教育　○中山京・高嶋		固定T○守屋・松島・堀内　集合研修　小林統括			
	ランク毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受けて意に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受けてにとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	基本的な介護手順に従い必要に応じ助言を得て介護を実践する
ニーズを捉える力	ランク毎の定義目標	助言を得てケアの受けてや状況（場）のニーズをとらえる	ケアの受けてや状況（場）のニーズを自らとらえる	ケアの受けてや状況(場)を踏まえたニーズをとらえる	ケアの受けてや状況（場）を統合しニーズをとらえる	ケアの受けてやk状況（場）の関連や意味を踏まえニーズをとらえる	助言を得てケアの受けてや状況（場）のニーズをとらえる
	行動目標	□助言を得ながらケアの受けてに必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受けての状況から緊急度を捉えることができる □看護師として常に学びケアの受け手と円滑なコミュニケーションが取れる	□自立してケアの受けてに必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受けての全体像としての課題をとらえることができる	□ケアの受けてに必要な身体的、精神的、スピリチュアルな側面から個別性をふまえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる	□助言を得ながらケアの受けてに必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □常に学びの姿勢を有しケアの受け手と円滑なコミュニケーションが取れる □全人的な視点からケアの受け手のニーズをとらえることができる
ケアする力	ランク毎の定義	助言を得ながら。安全な看護を実践する	ケアの受けてや状況（場）に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	助言を得ながら。安全な介護を実践する
	行動目標	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実践できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □新人看護師研修にて習得した看護手順やガイドラインに沿って、看護援助ができる	□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映できる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践する □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追及できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護が選択できる	□ケア倫理を遵守したケア提供ができる □人権を尊重したケア提供ができる □手順に沿ったケアが実践できる □療養環境に常に気を配ることができる
協働する力	ランク毎の定義	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手その関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	関係者と情報共有ができる
	行動目標	□助言を得ながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考えmその情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割が理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションをとることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の報告性や関係者の状況を把握し、情報交換ができる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □地域の保健・福祉・行政関係者との連携がとれる □ケアの受け手とケアについて意見交換ができる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□ケアの受け手が置かれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる □地域連携の中で医療者としての役割を認識した行動がとれる	□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するようその調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる □地域連携の中で医療職としてケアの受け手を擁護した行動がとれる	□ケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □チームの一員としての役割が理解できる □ケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる
意思決定を支える力	ランク毎の定義	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	ケアの受け手や周囲の人々の意向を介護に活かすことができる
	行動目標	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践する	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる □利用者中心のケアが実践できる
創造する力	ランク毎の定義	実践と根拠の整合性を図ることができる	自己の看護観の確立を図ることができる	チーム内の力動や多職種連携の中で看護職としての提案ができる	組織全体の中で主体的な行動がとれる	地域の中の一資源としての病院の看護職として自覚をもった行動がとれる	ケアチームの中でケア実践者として患者本位のケアの工夫ができる
	行動目標	□日々の看護実践について、振り返りができる □行った実践の根拠を述べることができる □常に倫理的な発想ができる	□倫理的思考に基づき、看護実践ができる □事例検討を通じて自己の看護観を明確にでき、内省に基づいた改善が図れる	□倫理的思考に基づいたケアを実践し、多職種チームに反映できる □常に問題意識を持ち、内省に基づいたよりよいケアの提案ができる □倫理的実践を後輩に伝えることができる	□倫理的課題を明確にでき、改善に向けた行動がとれる □組織の中で課題を分析してコンピテンシーを発揮した変革的行動がとれる、	□地域の保健・福祉・行政関係者との連携において常にレジリエンスを向上させる行動がとれる □組織的な役割遂行能力をもって創造し改善できる	□倫理原則に立った行動がとれる □ケアの受け手にとって最善のケアを工夫して実践できる □ケアの受け手にとって最善の療養環境を整備できる
	教育方法	★プリセプターシップ ★チューターシップ ★基礎看護技術チェック（6.9.12.3月） ★新人教育プログラム　事例発表3月 ★2年目研修　事例発表2月 ★各職場OJT ★学研eラーニング視聴	★倫理事例検討会にて事例展開 ★固定チーム研修会にてチームメンバーとしての役割認識を深める ★看護研究での取り組み ★各職場単位のOJT ★学研eラーニング視聴	★倫理事例検討会にて事例展開 ★各職場単位のOJT ★院内集合研修 ★学研eラーニング視聴 ★リーダーシップ研修 ★固定チーム研修	★倫理事例検討会にて課題を展開 ★各職場でのOJT ★院内集合研修 ★領域別専門研修 ★看護管理研修（ファースト・セカンド） ★幹部看護師研修 ★各種学会、マネジメント研修、認定看護師研修、専門看護師研修、実践認定資格取得研修 ★学研eラーニング研修	★倫理事例検討会にて課題を調整 ★各職場でのOJT ★院内集合研修 ★領域別専門研修 ★看護管理研修（ファースト・セカンド） ★幹部看護師研修 ★各種学会、マネジメント研修、認定看護師研修、専門看護師研修、実践認定資格取得研修 ★学研eラーニング研修	★各職場でのOJT ★院内集合教育 ★学研eラーニング（看護補助者・介護）研修 ★看護補助者研修　6回/年
	研修内容	★基礎・応用看護技術 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化	★看護協会・日精看での一般研修 ★看護研究に関するプレ研修会と学研メディカルサポートでの看護研究研修視聴 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化 ★学会等での研究発表	★看護協会・日精看・その他専門研修 ★各種学会参加・発表 ★固定チームナーシング長野地方会での発表 ★固定チームナーシング院内成果発表会 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化 ★組織理論と役割について学ぶ（小林統括部長）	★看護協会・日精看・その他専門研修 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化 ★組織理論と役割について学ぶ（小林統括部長） ★看護業務手順に沿ったケアの担保と後輩教育	★看護協会・日精看・その他専門研修 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化 ★組織理論と役割について学ぶ（小林統括部長） ★横断的組織理論を理解して地域援助理論の整合性を図る	★感染対策、医療安全、接遇と倫理、BLS、介護手順、アンガーマネジメント　その他 ★学研メディカルサポートで選択した3研修義務化
病院全体研修		○医療安全研修会 ○接遇改善研修会 ○救急診療委員会研修会 ○NST研修会 ○コンプライアンス研修会 ○地域医療連携懇話会 ○各種Web講演会 ○感染対策研修会 ○倫理委員会研修会 ○緩和ケア研修会 ○褥瘡対策研修会 ○認知症疾患医療センター研修 ○各種公開講座 ○厚生連看護師研修会		＜注＞ ★学研メディカルサポートのeラーニングについては年度当初のMBO面接にて選択しておく。各色な責任者は進捗状況の管理を行い、受講を勧奨する。受講にあたってはテスト合格をもって修了とする。 ★各職場のOJTについては、4月中に各職場の予定を教育委員会で集約しておくのでどこの部署のOJTにおいても他部署からの参加を可能とする	＜看護管理者教育　主任＞ 1. 主任の役割を理解でき、行動できる 2. スタッフの人材育成と能力開発ができる 3. 看護業務の管理と指導ができ、円滑な業務遂行ができる 4. リーダーシップを発揮してコーチング能力を獲得する 5. 師長を補佐し、チーム内の人間関係を調整できる 6. スタッフのサポートができる ＜看護管理者教育　師長＞ 1. スタッフの能力開発と人材育成支援ができる 2. 目標管理が遂行できる 3. 創造的に看護が実践できる職場風土が作れる 4. 質の高い看護サービスの継続的な提供・評価・改善ができる 5. 地域や他部門との連携調整ができる 6. 病院の使命や役割の推進と危機管理ができる		